道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

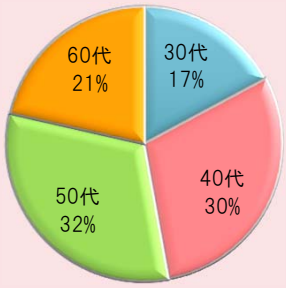
事業名	地区名	市町村	受益面積	受益戸数	採択年度	工期
畑地帯総合整備事業	きよさと	清里町	838.9ha	132戸	H19	H19～H23

工事内容				
土層改良				暗渠排水
客土	心土破砕	除レキ	土壌改良	91.6ha
159.4ha	631.8ha	2.0ha	465.0ha	

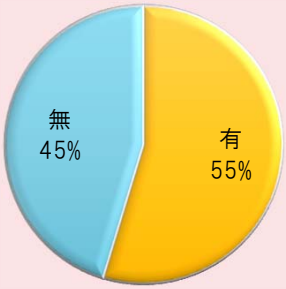
■アンケート回収率：７０／１３２　＝５３．０％

Ⅰ　基本事項

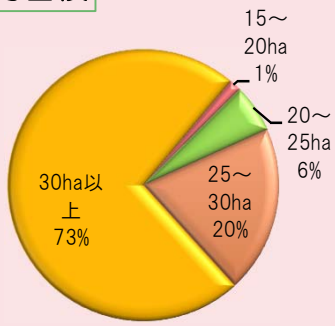
年齢



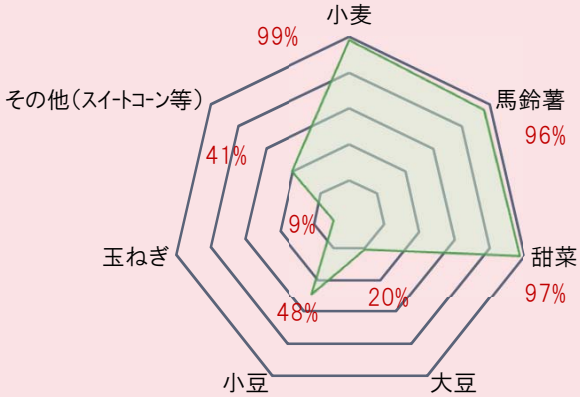
後継者



作付面積



生産作物

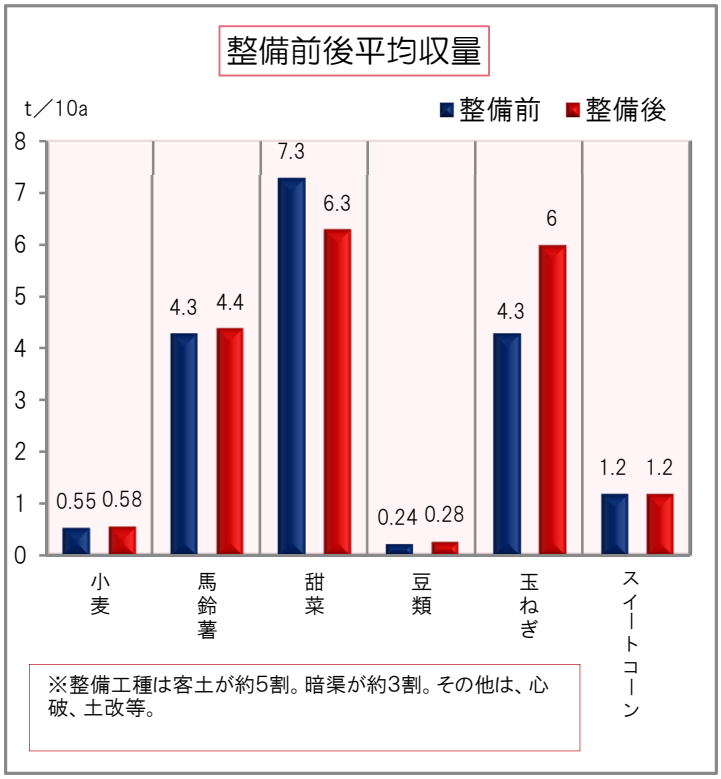


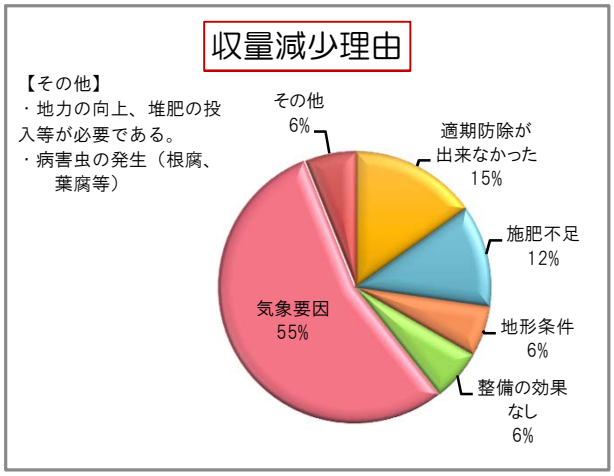
■年齢：50代以上が53%と高齢化傾向。
■後継者：55%が後継者有り。
■作付面積：30ha以上が約7割。
■生産作物：小麦が99%。次いで甜菜、馬鈴薯が約9割の作付。畑作3品を主体とし、小豆は約5割が作付。

道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

Ⅱ　事業効果

■１　収量効果：整備前の平年収量と事業整備後の平均収量及び収量が減少した場合の要因

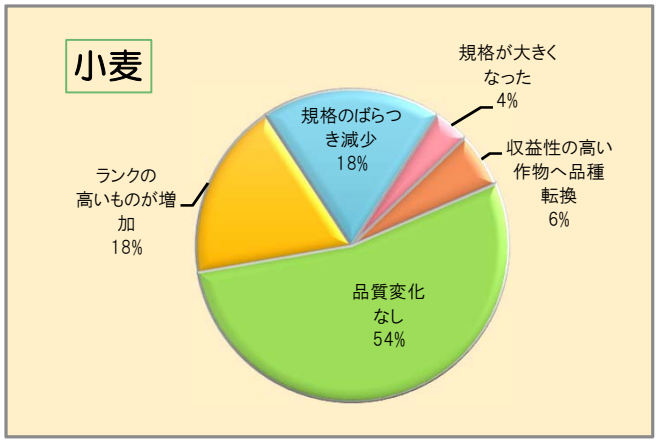


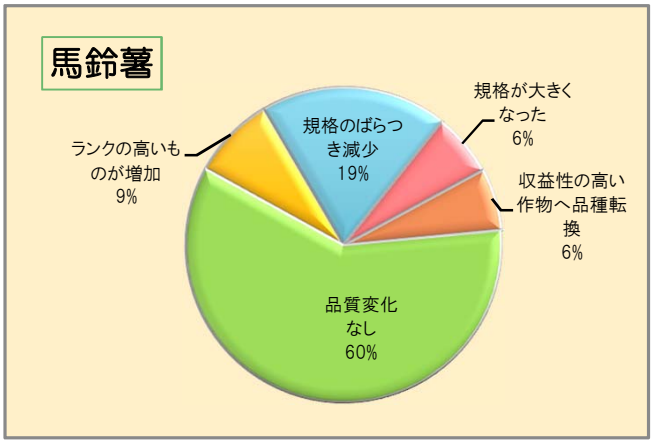


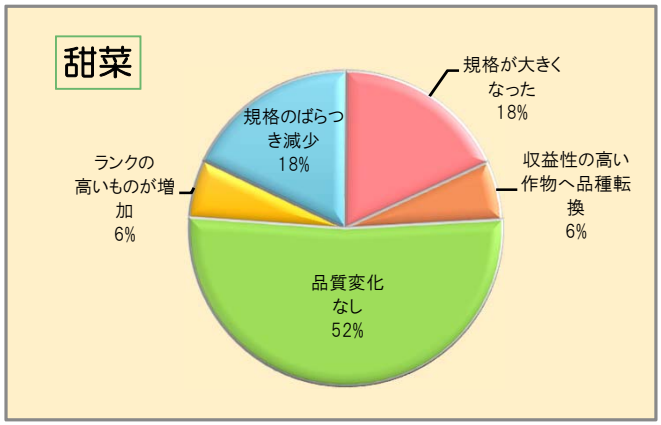
■収量は、小麦、馬鈴薯、豆類で収量増加。
■甜菜が減収。

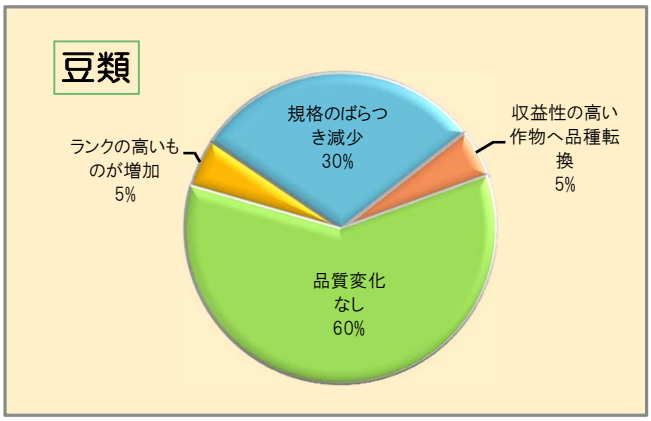
【気象要因減少理由】
・温暖化による病害虫の発生
・大雨、雹害。
・ここ2，3年は雨が多すぎて湿害気味である。

■２　品質変化：事業整備後の品質変化







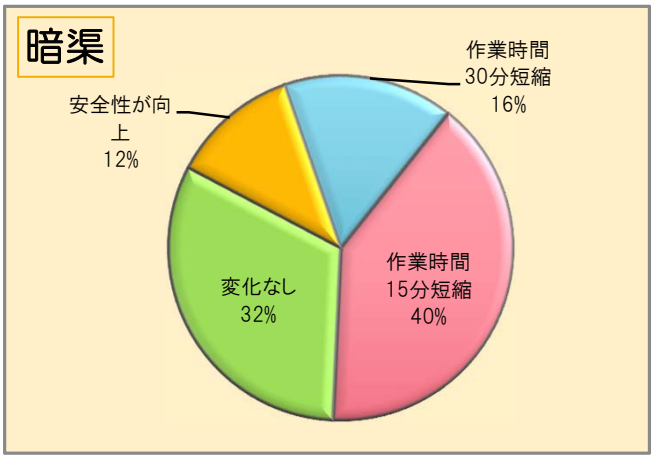


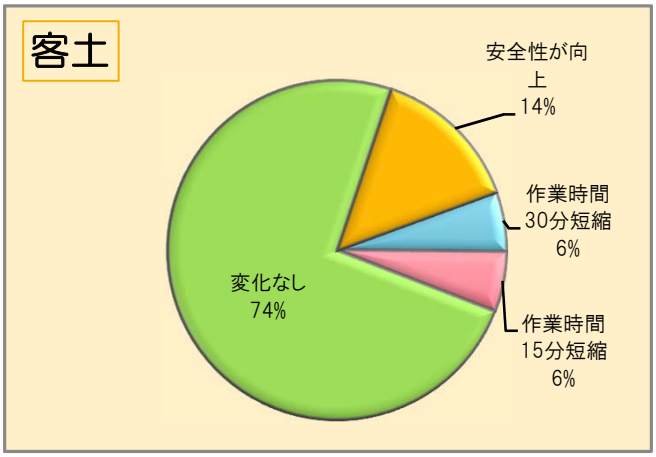
■小麦：約5割が品質の改善効果あり。
■甜菜：約5割が品質の改善効果あり。
■馬鈴薯：約4割が品質改善効果あり。
■豆類：約4割が品質改善効果あり。

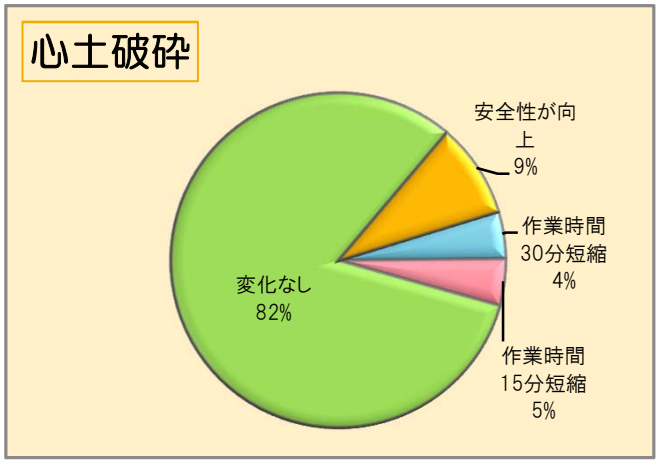
道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

■３　営農効率：事業整備後の営農効率の変化とその要因

①営農効率変化
（※1時間当たりの軽減時間）





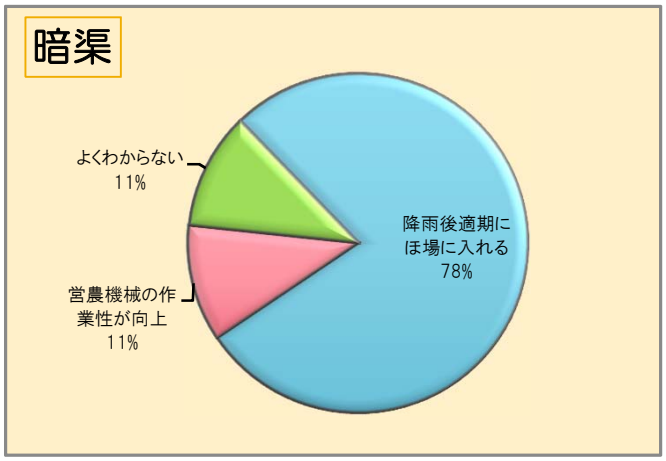


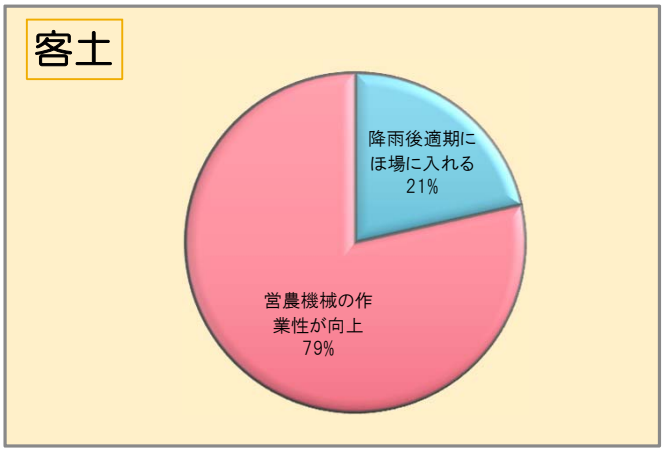
■暗渠：約5割作業時間軽減.

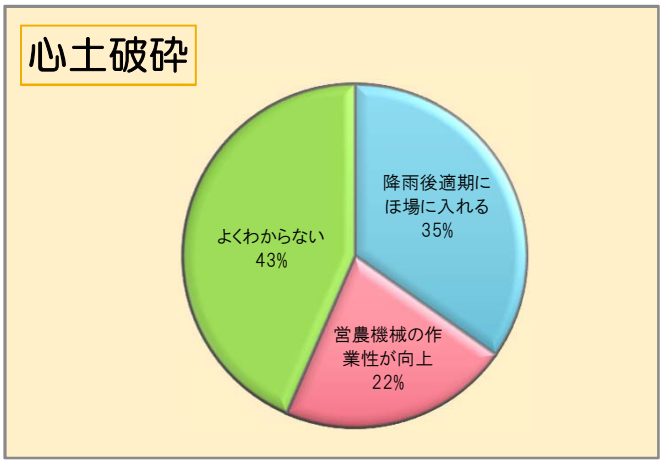
■客土：約1割が作業時間軽減。

■心土破砕：約1割が作業時間軽減。

②営農効率向上の要因







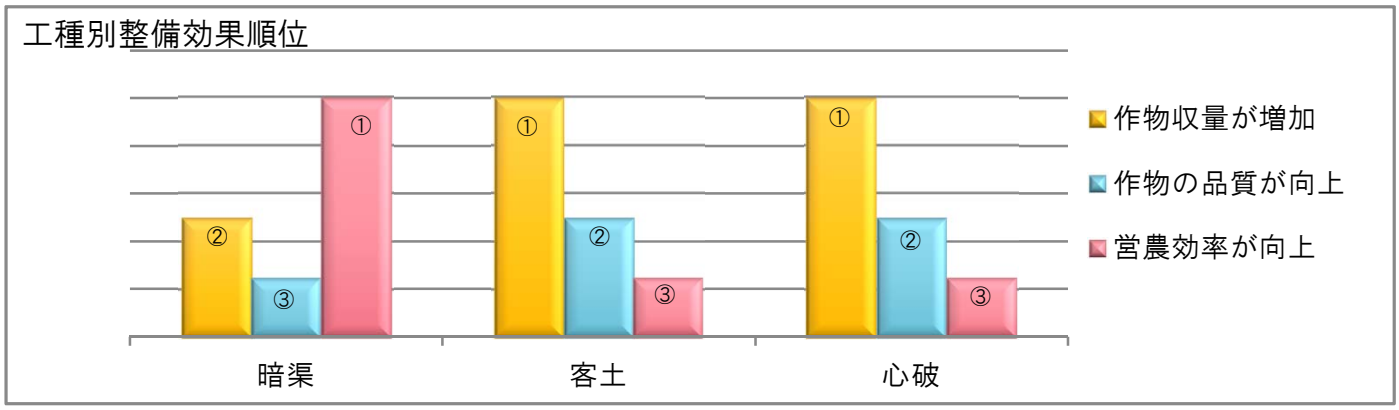
■暗渠：降雨後適期ほ場が約8割。

■客土：営農作業性の向上が約8割。

■心土破砕：降雨後適期ほ場が約4割。

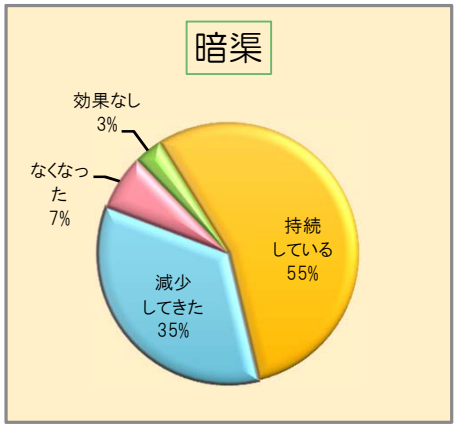
道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

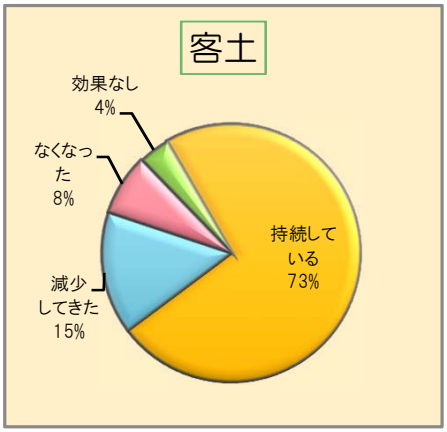
■４　整備効果：効果のもっとも高かった順位。

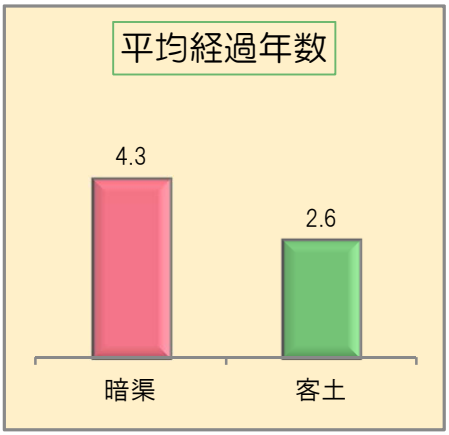


・暗渠は、営農効率の改善が一番効果が高い評価を受けた。
・客土、心土破砕は共に作物収量増加が高い評価を受けた。

■５　事業効果持続：整備経過年数と効果の状況。



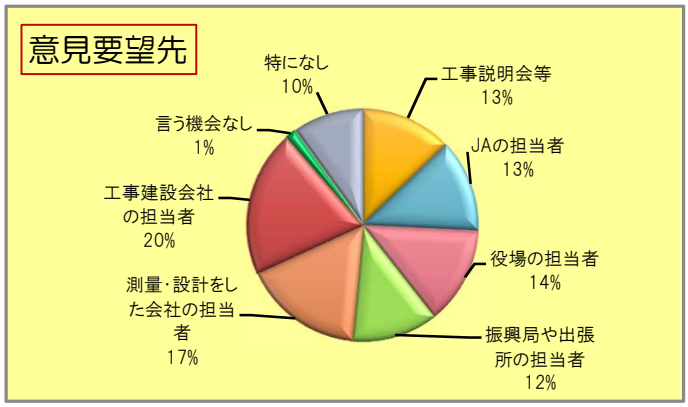




【減少理由(その他の意見)】
■暗渠：踏圧及び明渠排水の水位が上がってきた。
火山レキの入れ方(厚み)が少ないため寿命が短い
■客土：元々の表土が薄い、客土の厚さを増やしてほしい。

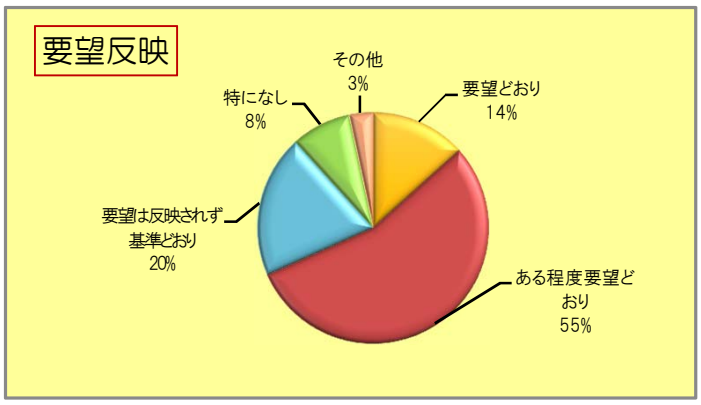
Ⅲ　工事内容

■１　工事に関しての意見要望先



■意見要望先は、測量・設計会社と、工事建設会社を合わせると、約4割となった。

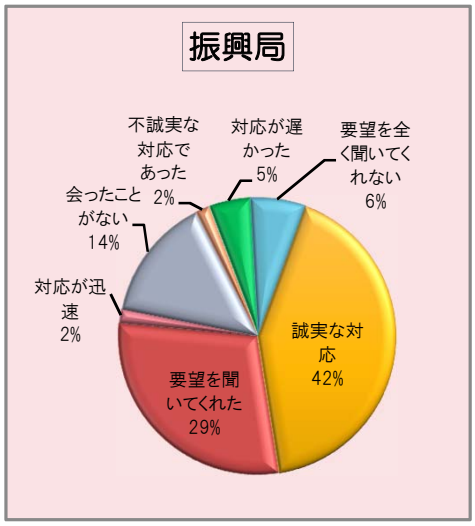
■２　工事への要望反映状況

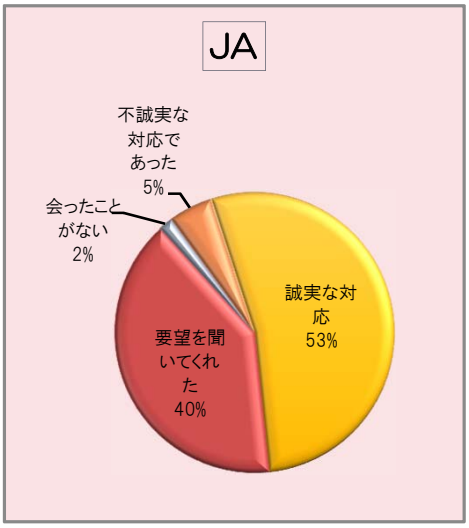


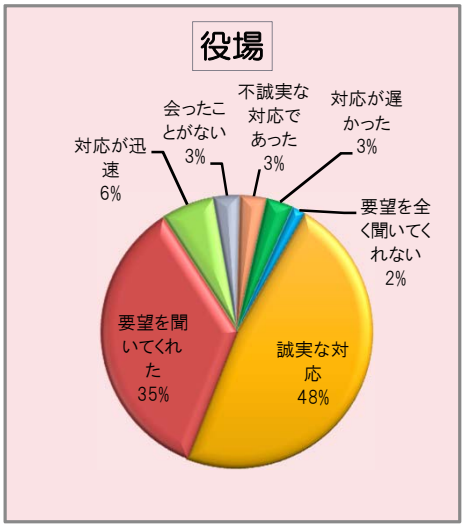
■要望の反映度としては69%との回答。

道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

■３　所属担当者の対応状況







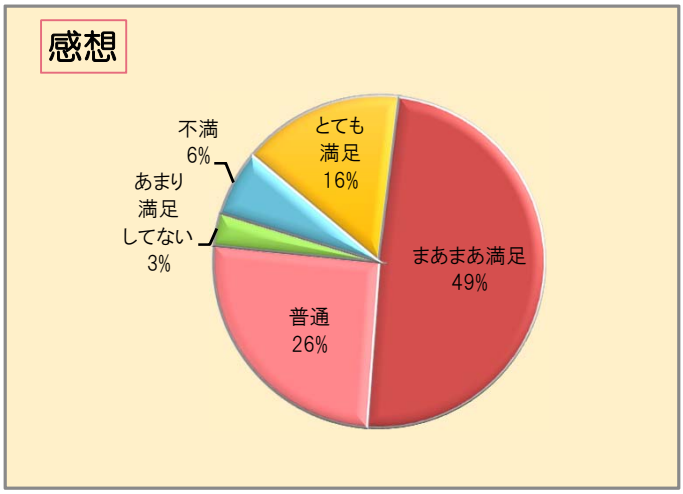
■対応については全体的に高い評価だったが、振興局職員に会ったことがない等の意見があった。

■４　工事監督員対応評価

【良かった点】
・天候が悪かったがなんとか対応してくれた。
・調査設計時に詳しく説明してくれた。

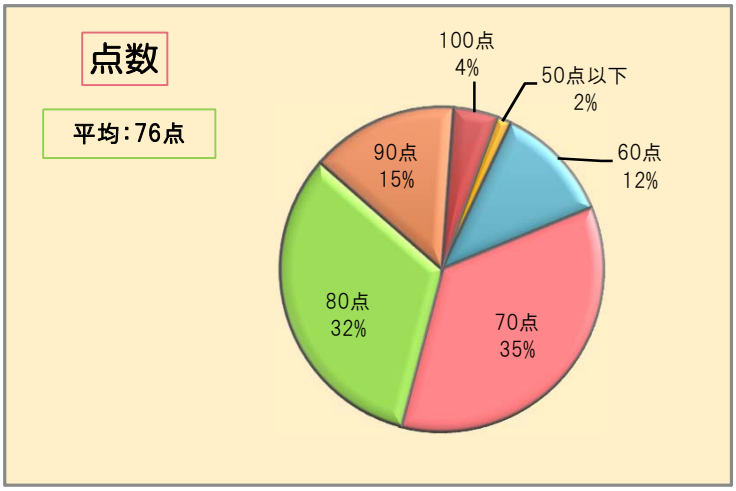
【悪かった点】
・担当者が変わりすぎ！！担当者同士の引き継ぎがなされてない。
・とにかく設計が悪く、思った通りの問題がおきた。

■５　工事の感想



■約7割が満足と回答。

■６　事業全体評価点数

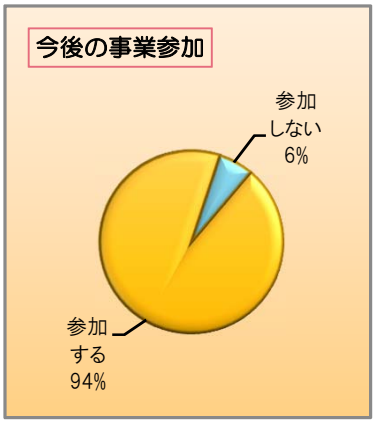


■平均点は76点の評価を受けているものの、いくつかの不満がみられた。
客土の土取場（土量）不足などの解消が必要で、今後の事業実施に向けての課題があった。

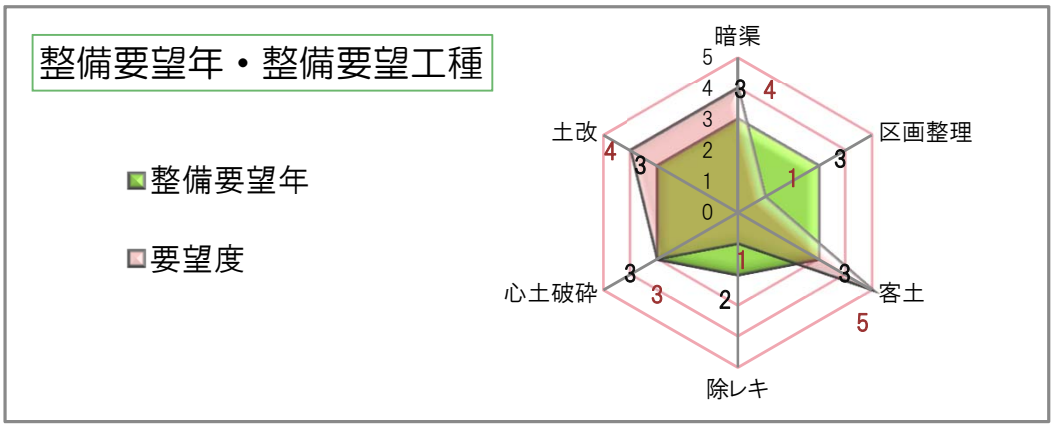
道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

Ⅳ　今後の基盤整備要望について

■１　今後の事業参加



■２　整備要望・整備要望年



■今後の事業参加：94％参加要望。

■今後の整備要望工種：客土が5ポイントと整備要望が高い。暗渠、心土破砕が4ポイント。区画整理、除レキの整備要望は1ポイントだった。

■今後の整備要望年：各工種は概ね、平均2～3年の後の整備を要望。

■３　今後、農業を持続していく上での課題

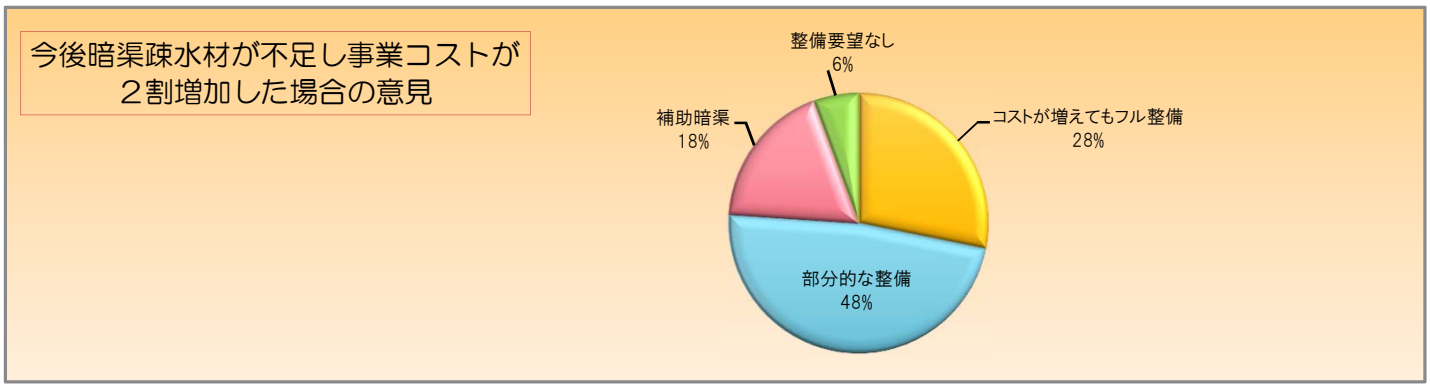
①営農で一番困っている課題

・近年多雨で農作業機械が畑に入れないことが多くなった。
・人手、コントラ等活用したい。作業効率のよい区画の整備。
・表土が薄いので客土をもっとしたい。
・農政が安定せず、長期的に計画が立てずらい。
・営農資材が高い。油、肥料、農薬、生産諸資材等なんでも高い。
・防風林の維持のため木の後処理（抜根、整地、植樹等）

②基盤整備による改善

・暗渠、客土での改善は出来ると思います（暗渠排水の間隔を狭くしてほしい）
・基盤整備事業は農業の骨格なので継続を切に願います。
・生産費の増加による所得低下で基盤整備事業の負担がきびしい。負担率の軽減してほしい。

■４　今後の暗渠整備要望



道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

■5　今後の基盤整要望

・除レキは基準が厳しすぎると思います。
今の基準では畑として使えない石畑でしか事業としてあてはまらないと思います。

・暗渠排水（この地区は水害に弱い畑も多く、まだ整備されていない畑が多々あるので現行の基準の整備を低負担で受けられるようお願いします）。

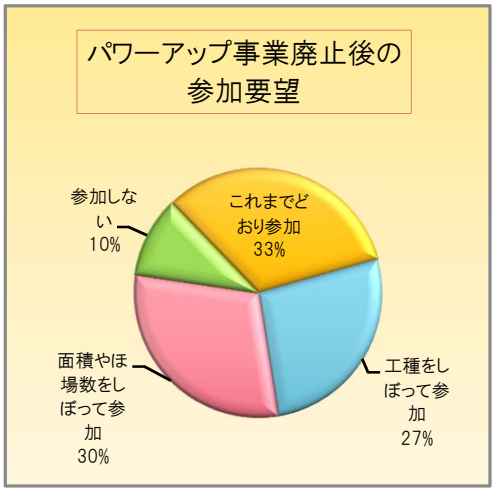
・暗渠排水（事業負担が増加しても暗渠を深く施工してほしい）。

・暗渠の間隔が広いのでもう少し狭くしてほしい。

・客土をしたい畑はたくさんあるが事業費負担や事業枠に制限されているため一部しかできない。

・区画整理でほ場の面積を大きくしたい（交換分合等とあわせた整備）

■6　パワーアップ事業参加



【パワーアップ事業に関する要望】

・コスト削減のための整備事業にコストが負担になるようでは本末転倒なのでパワーアップ事業が廃止されては困る。
・農業を営む上での基盤である畑、土の事業でありますから積極的に参加したいので負担軽減もありがたいですし継続を強く望みます。
・例えば7.5%、10%が12.5%、15%になってもいいから少しでも負担軽減してほしい。
・受益者負担が少なくなることを希望します。又は事業枠を増やしてほしい。

■7　全体をとおしての意見要望

・干ばつや大雨等異常気象に対応出来るよう暗渠排水等、基盤整備は非常に有効なので継続してほしい。

・同じほ場でもできるようにしてほしい。客土や暗渠は年数が経過した物は効果がなくなっている所が多々ある。

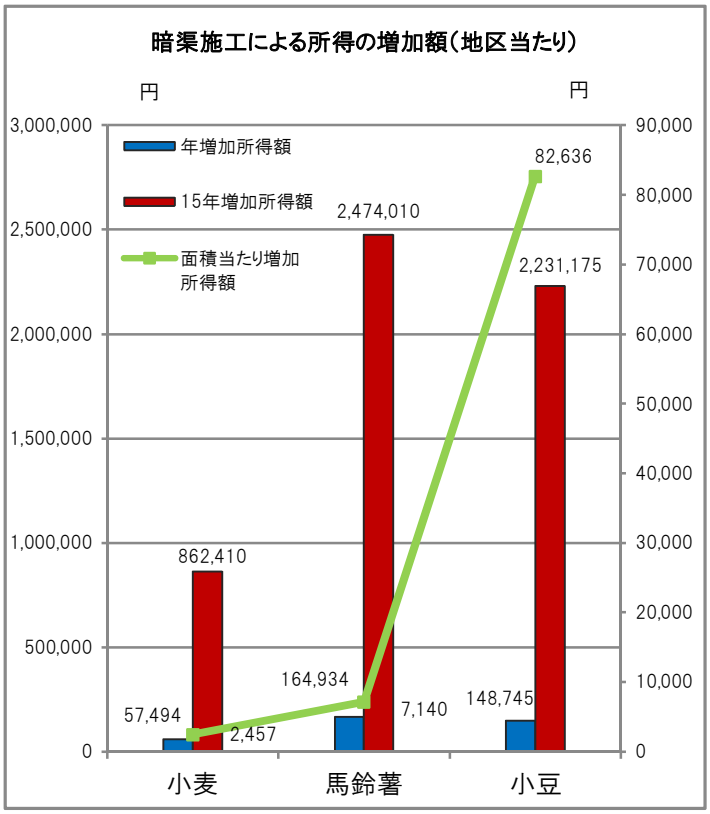
・受益者の負担は確かに軽減されておりますが全体の工事費が高額なのでは？

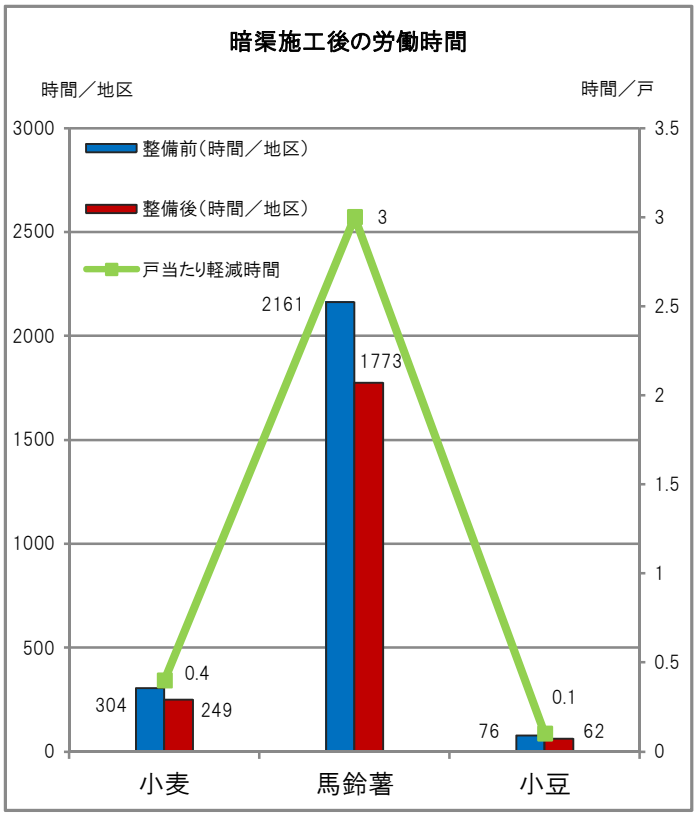
・事業をすると全てできたようなこのアンケートはおかしい。ほんの一部の事業で得られる結果は少ない。もっと希望にそって事業をお願いします。

・効率的に基盤整備を進めるためには、各戸希望で進めるのではなく、地域的に実施年を決め計画的に大がかりで進めた方が良いと思います。

道営畑総事業　きよさと地区　事業完了アンケート調査(H25年　3月調査)

＜参考＞





作物	暗渠受益面積		平均増収量	販売価格	所得率	面積当たり増加所得額	年増加所得額		総労働時間	
	作付率	作付面積(a)					地区当たり	戸当たり	整備前	整備後
	(%)	① (ha)	② (kg/10a)	③ (円/kg)	④	⑤=②×③×④ (円/ha)	⑥=①×⑤ (円/地区)	⑦=⑥/132戸 (円/戸)	(時間/地区)	(時間/地区)
小麦	25.5%	23.4ha	30	21	0.39	2,457	57,494	436	304	249
馬鈴薯	25.2%	23.1ha	100	14	0.51	7,140	164,934	1,250	2161	1773
豆類	2.0%	1.8ha	40	283	0.73	82,636	148,745	1,127	76	62
計						92,233	371,173	2,812	2,541	2,084

■暗渠受益面積：作物別の作付面積は地区の平均作付率により算出。
■面積当たり増加所得額：作物別の平均増収量、販売価格、所得率により算出。
■年増加所得額：暗渠排水の施工により増加する地区全体の所得額。暗渠受益面積と面積当たり増加所得額により算出。
■15年増加所得額：暗渠機能効果が15年持続した場合の増加所得額で、年増加所得額を15倍して算出。
　※販売価格：小麦は秋まき小麦、馬鈴薯は食用馬鈴薯、豆類は大豆の販売価格を適用。
■総労働時間
　・整備前：畑・野菜複合経営30haモデルの総労働時間「2,189時間」を基に作物別のha当たり労働時間を算出し、これと暗渠受益面積により整備前の総労働時間を算出。
　・整備後：「営農の効率変化」アンケート結果により、整備前の労働時間を約6割18%軽減させて算出。
　・戸当たり軽減時間：整備前と整備後の労働時間の差を地区の受益戸数「132戸」で除して算出。
（販売価格等はJA地域農業振興計画から引用）